討論

民主党・無所属ネット議員団の森みどりでございます。

会派を代表いたしまして、今議会に上程されております諸議案のうち、議案番号7 指定管理者の指定の件について、我が会派の見解と態度を表明いたします。

知事は指定管理者の指定について、指定出資法人大阪府公園協会が指定を受けている現状を「府民から見て非常に分かりにくい、外形的な公平性が確保されていない。根本的に見直すべきだ」と発言されてきました。

府営公園における公園協会の扱いについては、我が会派として、かねてより大阪府は身内に甘いのではないかと指摘してきました。その考え方は基本的に変わっておりません。

しかし今回、議案提案に当たり、都市整備部長は本会議で、「都市整備部が選んだ選定委員が、部局が所管する公園協会を、指定管理候補者に選定していることから、府民からみて、公平性に問題があり、理解を得られないと認識いたしました」と答弁され、さらに、公園協会の指定期間について、3年を1年に変更することで府民に理解を得る。その間に新たな制度を構築すると説明されています。

ここで多くの問題点が出てまいりました。

そもそも、公平性の点で問題があり、府民の理解が得られない議案を提案すること自体が問題ではありませんか。議決の前に問題点を把握したら、その問題点を解決し、新たな制度で、指定管理者を選び、議案として提案すべきであります。期間を3年から1年に変えたところで問題は何ら解決されておらず、府民の理解を得ることはできません。

浜寺公園については、ここだけが公園協会でありながら、競争相手がいなかった為、指定管理期間が3年となっておりますが、同公園内に公園協会の事務所が存在していることを考慮して、はじめから競争原理が働きにくくなっています。

また、知事は、選定委員の選定は部局によって行われたため、知らなかったとされていますが、地方自治法154条では、「普通地方公共団体の長は、その補助機関である職員を指揮監督する。」と規定されており、知事には都市整備部に対する権限と責任があります。さらに選定委員の委嘱は大阪府知事橋下徹名で

委嘱されており、委嘱を受けた選定委員は、当然知事から委嘱があったものと捉えられ、今さら「知らなかった」と言われても、府民には非常にわかりにくい。

さらに知事は、都市整備常任委員会で指定管理者の選定のための新しい制度をつくる際、都市整備部ではなく総務部などで選定委員の選定が行われるべきと発言されていますが、府民から見れば都市整備部であろうが、総務部であろうが、同じ大阪府であり、これもまたわかりにくい。

最後にもう一度繰り返します。公平性の点で問題があり、府民の理解が得られないことが議決の前に判明した以上、議案は提案すべきではありません。

以上、7号議案のうち、公園協会が指定を受けている第2、第6、第9～12、第14、第16～第18の10件については反対し、その他の議案に賛成することを表明し、討論を終わります。

ご清聴ありがとうございました。